

た。

ウノネ 鶴の音 二冊。金澤の俳人槐庵馬來編。寛政三年九月京井簡屋庄兵衛・橋屋治兵衛板。芭蕉・北枝・一笑・句空・萬子・希因・麥水見風を初め、諸國俳人の句を四季に分かつて輯録し、巻尾に附合を載せてある。序は關吏及び芙蓉、跋は蝶夢。

ウノハナヤマ 卯の花山 一冊二卷。金澤の俳人友琴編。元祿七年京井簡屋庄兵衛板。友琴の門人の發句を多く集め、友琴と江戸の轍士との附合もある。甲戌終實自序。

ウノメダケ 鶴目嶽 鹿島郡山崎に在る。能登名跡志に、『山崎村奥村に鶴目嶽とてあり。觀音堂あり。當國巡禮三番の札所也。雖所ゆゑ大方は鹿渡島の觀音に札を納る也。』と記する。

ウノヤ 鶴野屋 羽咋郡神造庄に屬する部落。宮木八幡宮傳記には鶴屋村と記する。

ウノヤササダ 宇野保定 通稱八兵衛。有職に詳しく、武藝は關重秀の門下であり、又算學を本多利明に學んだ。天保十四年正月七十三歳で歿。官位相當略表・本多利明先生行狀記等の著がある。

ウノヤノツツジ 鶴野屋の園 羽咋郡鶴野屋の中平氏邸の庭前に大園がある。株の周囲は凡べて二二米、樹高二米許。叢生するもの五十四幹を數へ、その中最大の幹は周囲四二種ある。赤色單瓣の霧島で、毎年五月中旬に開花する。能登では眞至郡赤崎の霧島園に次ぐ老木である。

ウノリウコ 宇野柳登 金澤の俳人。森下町に住し、通稱越前屋吉左衛門又は六兵衛、後に宇野豫郎に改めた。天保七年開辛亭五代

を繼席したが、中頃には守泉堂、晩年には六陽軒と號したこともある。明治七年九月一日六十歳を以て歿した。

ウハエ 上江 羽咋郡山崎に屬する部落。ウバガウラ 祖母ヶ浦 ウバ 鹿島郡能登島庄に屬する部落。能登語に、臥行者の居住した所で、祖母堂・祖母ヶ塚があると記す。

ウバガタキ 姥ヶ瀧 石川郡中川の上流蛇谷にあつて、昭和五年大阪醫林局技師の一行によつて命名せられたものである。瀧の特色は、水が急斜面の巖壁を走つて、縦横に曲折しながら落下するので、恰も銀糸を亂した如き奇觀を呈し、高さ六〇米、幅は上部で六米、中部で二〇米、下部で一二米を有する。

ウハギ 上木 江沼郡西庄に屬する部落。爰徳紀開に、上木村の治郎七釜屋は海手に近い谷で、古へ檜林があり、その後も雜木生茂つたが、今は一園に砂地となつたと記してある。

ウハギイヘミツ 上木家光 後醍醐天皇の時に當つて、軍記中に加賀の土藏敷地 上木・山岸等の名が頻出する。延元元年加賀の國司二條師基が後醍醐天皇の吉境を救ひ奉る爲上京した時にも、此等の徒を率ゐたとある。又延元二年三月新田義貞は越前金ヶ崎城を陥れられて山に據つたから、尊氏は足利高經を下して官方掃蕩の任に當らしめたが、その時加賀の人敷地伊豆守・山岸新左衛門・上木平九郎家光等は、義貞の徒畑六郎左衛門時能の招に應じ、加賀の國境に近き越前細呂木に城郭を構へ、又津葉五郎清文の大型寺城を陥れ、次いで三人皆細屋右馬助の軍に屬し、三年（曆應元）二月越前に於いて足利高經の軍を破つ

た。この年間七月二日義貞の足羽城を攻撃した時にも三人は之に屬し、而して上木家光は實に此の日の軍奉行として夫卒を率ゐ、幕・播磨・埋草・扉柱等を迎撃せしめて参加したといふ。この戦に義貞は歿して、官方は土崩瓦解した。翌四年七月脇屋義助は越前の國府を發し、足利高經を黒丸城に圍み、十六日官方は終夜喊聲を發し、遠矢を射、後陣の至るを待つて拂曉攻撃を加へんとした。是より先上木家光は降つて高經の營に在つたが、策を獻じて言つた。前年足利氏がこの城にあつて能く新田氏を破つた所以は、一に上國官方の土

が地理に熟しなかつたに因るのである。然るに今は我が兵の彼に降るもの多く、曩日と形勢大に異なるものがある。況や敵には剛強畑六郎左衛門時能の如きもあるから、寡兵を以て戰ふこと實に容易でない。夜に乗じて加賀に退き、京勢の下るを待つて彼を一蹴するに如かぬと。諸將亦之を贊し、高經乃ち火を城に放つて、急に宮檣城に走つたといふのである。この後の事情は明らかでないが、八月後醍醐天皇崩じて後村上天皇立ち給ふに及び、

宮方の勢益不振で、京師よりは高經の爲に援軍を發して越前に侵入せしめたに反し、義助は美濃・尾張を経て吉野に入つたから、越中能登・加賀・越前・若狹の中に官方の支持し得た城寨一もなく、唯畑時能が鷹巢城にあつて孤思を守るのみであつた。因つて高經は大軍を以て之を圍んだが、その時上木家光が密に謀を城中に通ずるとの流言があり、『畑を打たんと思はせ先づ上木を打て』との秀句を畫いた高札を立てる者さへあつたから、家光は大に怒つて、自ら赤心を明らかにせんと欲し、

興國二年（曆應四）二月廿七日詰旦、一族二百餘人と共に敵營に迫り、足利氏の兵も之に續いたが、時能の逆撃に會うて返却した。しかも十月時能の伊知地山に戰死するに及び、北國の官方は全く聲息を潛めた。

ウハギガハ 上木川 江沼郡に在る。一流は上木領赤山の堤から、一流は上木出村の生水から出で、二流合して同領水門に至り、大聖寺川に合する。

ウハギジヨウ 上木城 江沼郡上木にあつた。爰徳紀開に、上木村めくらが油の西の粟を城跡といひ、昔は土居植物もあつたが、今は大かた砂に埋れたとある。太平記に、加賀國の住人敷地伊豆守・山岸新左衛門・上木平九郎以下の者など、記した平九郎家光は、この地の人であらう。

ウハギシンベエ 上木新兵衛 朝倉義景の時代に越前府中に居住したといふ。前田利家の側室で、利常の生母である壽福院の實父である。

ウハギチユウエモン 上木忠右衛門 慶長五年初めて前田利長に仕へて二百石を領し、元和元年歿。子孫相繼いで藩に仕へた。

ウハギテンジンシャ 上木天神社 江沼郡上木に鎮座する。式内等舊社記に、『上木天神社。西庄上木村鎮座。往古以來稱「上著」。有神衣奉納之古式云云。』とある。今上木菅原社と稱する。

ウハサハ 上澤 ヲウ 鹿島郡澤野の内の小字。

ウハシゴウ 得橋郷 能美郡の古郷名で、和名抄に『得橋、宇波之』とあり、神名帳には菟橋神社がある。陸奥軒日録文明十七年七